

日本産業衛生学会

第 62 号 2017 年 12 月 12 日

産業医部会会報

公益社団法人 日本産業衛生学会 産業医部会事務局

〒160-0022

東京都新宿区新宿 1-29-8 公衛ビル内

TEL 03-3356-1536

FAX 03-5362-3746

e-mail:sanei.4bukai@nifty.com



巻頭言

『産業保健の新しいリーダーシップを求めて』

公益社団法人 日本産業衛生学会 理事長 川 上 憲 人

第12代日本産業衛生学理事長として、産業医部会の皆様にご挨拶を申し上げます。変化する法制度、多様化する事業者のニーズと労働者の価値観を反映し、産業保健の実践は日々複雑なものになっています。こうした状況の中で産業保健専門職が事業者と労働者が行う労働安全衛生活動を、適切かつ効果的に支援するためには、単なる知識や技術ではなく、ものの見方、考え方を意識して習得することが必要になっていると考えています。

このたび、2017-2018の日本産業衛生学会のビジョンとして、「産業保健の新しいリーダーシップを考える」ことを掲げることにしました¹⁾。リーダーシップとは「ビジョンを持ち、これを現実にしてゆく」力のことです²⁾。近年ではリーダーシップは、生来のものではなく自ら学べるものであり、またどんな立場の者でも発揮することのできる能力とされています。経験や職種にかかわらず、すべての産業保健専門職がなしとげたい「ビジョン」を持ち、これを実現してゆくことが、目指すべきリーダーシップのあり方です。学会は、会員1人1人が自らのリーダーシップを発揮することを応援するとともに、学会としても、幅広い関係者と連携し、自らの発信力を高め、社会的な責任を果たすためのリーダーシップのあり方を考えます。

産業医部会の皆様にもぜひ、産業保健のリーダーシップとは何かを考えることにご参加いただきたく思います。産業医についてみると、政府の「働き方改革」などと関連して、産業医のあり方が大きく問われています。2017年9月15日には労働政策審議会から産業医の機能強化を含む労働安全衛生法の改正案が建議されましたが³⁾、実質的な議論はまだこれからです。産業医はどうあるべきか、どんな産業医を育てる必要があるのかについて、産業医が自ら発信してゆくことが求められています。あなたの産業医としてのビジョンは何でしょう。あなたは、どうやってそれを実現しようとするのでしょうか。こうした基本的な問いかけから、新しい時代の産業保健のリーダーシップが生まれてくることを期待しています。

文献：

- 1) 川上憲人. 日本産業衛生学会のビジョンと活動について(2017-2018). 日本産業衛生学雑誌 59(5): A83, 2017. <https://www.sanei.or.jp/>
- 2) Alon I, Higgins JM. Global leadership success through emotional and cultural intelligences. Business Horizons 2005; 48 (6): 501-512.
- 3) 厚生労働省「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律案要綱」の答申(平成29年9月15日), <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000177380.html>

「合格、おめでとうございます！」

～新専門医の抱負～ 喜びの声

平成29年度産業衛生専門医試験に合格された新専門医の先生方、合格おめでとうございます。健康経営、過重労働対策、ストレスチェック制度、治療と職業生活の両立支援、化学物質のリスクアセスメント等、産業医に期待される業務は増え続けています。産業衛生専門医となられた先生方の今後益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。今回ご寄稿いただきました25名の先生方の他、楠本朗先生、渡邊聖二先生も合格されましたことを併せてご報告させていただきます。

株式会社SUMCO全社産業医

彌 富 美奈子

『日本産業衛生学会専門医になつての抱負』



藤沢市保健医療財団
明 間 勤 子

このたび専門医の資格を取得でき、ご指導いただきました諸先生方には大変感謝しております。受験を諦めようかと思ったこともありましたが、励ましてくださった先生のお蔭もあり、時間の経過とともに喜びを一層深くかみしめております。私は本年3月まで株式会社IHIの専属産業医として働いておりましたが、現在は嘱託産業医として違った経験をしております。振り返ってみると、系統的に知識を積み重ねられたこと、また知識だけではなく、その知識を元に産業医としての仕事のやり方まで幅広く勉強できたことは、今後の産業医活動にとっても、大きな財産になると思います。また、今回一緒に試験を受けたグループの皆様とも、ご縁ができましたことも、大きな財産となります。皆様私よりずっと若く、試験の間も大きな刺激を受けました。

この経験を忘れずに今後も産業医として一步一步精進していきたいと思っております。

『ますます産業保健を楽しみたいと思います！』



九州旅客鉄道株式会社
人事部勤労課
健康管理室
浅 海 洋

九州旅客鉄道株式会社の浅海洋と申します。昨年に引き続き二度目のチャレンジで、今回、産業衛生専門医の仲間入りをさせていただくこととなりました。指導医の堀江正知先生をはじめ、たくさんの方々の御指導を受け、今があると思っております。改めて感謝申し上げます。

産業保健が担う範囲はとても広く、学ぶべきことがたくさんありますが、業務とは関わりの少ない分野については学びにくく、なかなか興味も持ちにくいと感じておりました。しかし、専門医試験の勉強を通して、これまで避けてきた分野ともつきあうことができました。これまでよりも深く理解し様々な事を知るようになったおかげで、産業保健における様々な分野に対して、面白さを感じる事が出来るようになってきたように思います。

論語では「是を知る者は是を好む者に如かず。是を好む者は是を楽しむ者に如かず。」と申します。今後はより一層、産業保健を楽しんでいきたいと思っております。

『日本産業衛生学会専門医になったの抱負』



公益財団法人
熊本県総合保健センター
石井 雅子

この度、日本産業衛生学会専門医試験に合格することができました。今までご指導いただいた、千葉県の君津健康センターの榎元先生、山瀧先生に深く感謝申し上げます。

私は、産業医科大学を卒業し、しばらく臨床医として勤務していました。縁あり、前職場の君津健康センター勤務となり、労働衛生機関の嘱託産業医として働かれている先生方の姿をみて、自分も産業医としての専門性を持ちたいと強く思うようになりました。恥ずかしながら、産業医の基本的姿勢も知らないままのスタートでしたが、いつも温かく優しく楽しく指導いただき、のびのびと産業医活動を行うことができました。とても楽しい研修期間でした。この職場でなかったら、ここまで来ることはできなかったであろうと思います。心から感謝申し上げます。

これからは、故郷の熊本に移動して新たな産業医生活のスタートです。専門医の名に恥じぬよう社会に貢献できるように、日々精進してまいります。

『日本産業衛生学会専門医になったの抱負』



株式会社 小松製作所
本社健康増進センタ
湘南健康管理室
石川 麻子

産業衛生学会専門医試験に合格することができました。

受験に際して、実務研修手帳で過去の活動を振り返り、成長できた部分と、まだ不足している部分を改めて見直すことができました。

試験では、グループ討議・課題発表に対して、試験官の先生方からご講評を頂きました。そこからの得る、学びや気づきが多くあり、専門家として知識をただ持っているだけでなく、相手が必要とするものをわかりやすく伝えることも、大切な能力であり、技術であるということを再認識できました。

最後になりましたが、大学卒業後からこれまで、ご指導・ご支援を頂きました先生方には、感謝の気持ちしかありません。また、一緒に試験を受けた先生方や先に試験を受けられていた先生方にも多くの支援を頂きました。本当にありがとうございました。

ここが新たなスタート地点と考え、専門医として日々精進してまいります。今後ともご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

『専門医の名に恥じない産業医を目指して』



一般財団法人 君津健康センター
小倉 康平

合格通知をいただいた時、試験勉強の努力が報われた喜び、これまでの産業医活動が評価されたという安心感とともに、今後は専門医の名を背負い、それにふさわしい貢献をしなければならないという責任の重さを感じました。目の前の問題に対し、広い視野で捉え、様々な知識を動員し、リアルに考察し、長期的なプランを立てる。自分の立場を十分に理解し、必要十分な行動を選択する。試験で問われた様々なことを自然と行えるようになったとき、本当の意味で専門医になれると思います。今の気持ちを常に忘れず、専門医の名に恥じない活動を行い、社会に貢献していきます。そして、これからも勉強と経験を重ね、更に挑戦を続けていきたいと思います。

最後になりますが、親身なご指導と励ましをくださった先生方、共に学び共に試験に臨んだ先生方、そして合格までの道のりを支えてくれた家族に心より感謝申し上げます。

『働く人の健康を支えるという夢』



あいクリニック
落合 秀宣

私は、卒後研修病院に内科レジデントとして勤務し、総合内科専門医、循環器専門医となるべく臨床研修を積み、循環器内科の臨床研究で学位も得ました。また、並行して嘱託産業医業務を意欲的に続け、労働衛生コンサルタントと、今回58才で産業衛生学会専門医資格を取得することができました。これも充実した教育体制、指導医からの適切なご指導、妻の献身的な支援のお陰と感謝しております。現在、内科・循環器科を標榜して開業6年目になります。都心駅近で開業した理由の一つは産業医業務を続けるため、産業医業務の時間をとり電車と首都高速で事業所を回っています。内科診療の対象もいわゆる作業関連疾患が多くを占めるようになり、「働く人の健康を支える」という使命感をより強く持つようになりました。これからは、労働衛生コンサルタント事務所併設の夢を実現すべく、臨床医と産業医の専門性を融合した社会貢献ができればこの上ない喜びと思っております。

『日本産業衛生学会専門医試験を振り返って』



ブラザー工業株式会社
健康管理センター
川 角 美 佳

この度、日本産業衛生学会専門医試験に無事に合格することができました。今までご指導をくださった先生方に心より感謝申し上げます。

指導医の先生方からご指導をいただきながら、実務研修手帳の作成には時間をかけました。その中で、自分の経験を整理することができましたし、今後の課題を見つけることもできました。何よりも先生方からご指導をいただく中で、物事のとらえ方の違いを知ることができ、大変勉強になりました。

専門医試験は緊張感の高いものでした。専門医試験を受ける先生方同士で励まし合えたことで、2日間を乗り越えることができました。終わってから、試験の反省会を自分自身の中で行いました。100%の力を発揮できなかったことを悔しい思いでいましたが、おそらく、それが今の自分の実力なのだと思います。これからも、専門医の名前に負けないよう精進していきたいと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

『今後の産業保健活動について考える』



株式会社 熊谷組
健康推進室 統括産業医
小 橋 正 樹

産業衛生専門医合格にあたり、今までご指導賜りました方々に改めて御礼申し上げます。産業保健活動の目的達成の為には、少なくとも日本の就業者約6500万人が「肉体的・精神的・社会的な健康」を満たせる支援が必要です。また、今後はますます業種や企業規模に応じた柔軟な産業保健活動が求められると予想されます。一方、2014年の厚生労働省調査では全国届出医師数約30万人のうち産業医数は約1000名と、産業保健について十分な時間を割ける医師は決して多くありません。そのような中で我々産業保健を専門とする者には、我々専門家以外の産業保健活動に関わる全ての者が最小限の取組で最大限の効果を上げられる仕組みの構築や、外の世界への積極的な発信や連携など、自身の研鑽に加えすべきことが沢山あると感じます。全ては働く人々の健康の為に。部分最適だけに囚われず全体最適も常に視野に入れ、自分にできる産業保健活動を今後も模索していきたいと思っております。

『産業衛生専門医資格認定試験に合格して』



ソニーコーポレートサービス株式会社
産業保健部
菅 野 良 介

まず試験合格にあたり、指導医の中尾先生、川波先生、大神先生を始め、ご指導頂きました諸先生方に改めて感謝申し上げます。

専門医試験の勉強開始から試験終了までを通しての一番の学びは、今まで断片的に理解していたものを体系的に学び直すことで、産業保健活動の「原理原則」が意識できるようになったことです。これからは「原理原則」という骨格に従って対応を考えながら個別の事例に必要なアレンジを加えるといった方法で、より良い産業保健活動を実践していきたいと考えております。

既に専門医としてご活躍中の先輩先生方にはまだ遠く及びませんが、私にも専門医として高いレベルが求められることは自覚しなければなりません。担当企業の従業員の方々、そして企業自体の幸福や産業衛生学会の発展に貢献できるレベルに達するためにも、これからも研鑽を積んでいく所存でございます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

『日本産業衛生学会専門医試験を終えて』



コニカミノルタ株式会社
人事部 健康管理グループ 兼
丸の内人事グループ
高 木 絵 里 子

この度、日本産業衛生学会専門医の資格をいただくことができました。これまで多くのご指導を賜りました先生方にこの場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

私は働く母の姿を見て、女性がいきいき働ける社会作りに貢献したいと医師に、そして産業医になりたいと思いました。その一方で、女性の社会進出に寄与したいという気持ちは持ちながらも、女性の雇用だけでなく、小規模事業場や様々な雇用形態など多様性に富んだ社会で産業医として企業に関われる面白さを知りました。

業務に追われ忙殺される日々の活動では目の前の課題にばかり心血を注ぎ、基礎的な学び、系統的な学びを疎かにしてきたことを専門医試験を通して直面しましたが、まずは目の前の企業・労働者と真摯に向き合い、「産業衛生の専門医」として一つ一つの活動に対して意義や位置づけを熟思してこれからも精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

『日本産業衛生学会専門医になったの抱負』



株式会社 日立製作所
鉄道ビジネスユニット
笠戸事業所 健康管理センタ
田 中 貴 浩

このたび、日本産業衛生学会専門医試験に合格することができ、ご指導頂いた多くの先生方、専門医試験合格を目指してともに協力した皆さま、および家族にこの場を借りて御礼申し上げたいと思います。

試験準備を進めるにつれ知識の浅さや系統立てた整理ができていないことに改めて気付かされ、日々の産業医活動を見直すよい機会となりました。試験当日は、自分自身の考えをまとめ文章にする、発言する難しさに苦勞し、日頃から取り組んでおくべきであったと反省しております。さまざまな背景や考えを持つ方々とのグループディスカッションや課題発表は、大変刺激を受け貴重な経験ができたと感じております。

今後も研鑽を続け、産業衛生専門医として恥じぬ働きができるよう精進してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

『日本産業衛生学会専門医になったの抱負』



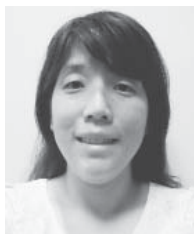
一般財団法人 西日本産業衛生会
北九州産業衛生診療所
寺 澤 知 世

この度専門医に無事合格することができました。指導医の先生をはじめ、多くの先生方にご指導いただいたお蔭です。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

今年度から新制度での試験となり、不安も多々ありましたが、受験して良かったと思います。合格という結果も重要ですが、合格までの過程も私にとって非常に価値のあるものになりました。まず、手帳を作成・見直しすることによって、自分が今まで行ってきた活動を振り返ることができました。1つ1つの活動を丁寧に行っていくことを心がけていますが、時間をとって振り返ることまではできていなかったのも、良い経験になりました。また、試験勉強をしていると自分に不足している知識や技術が明らかになるので、普段自覚していなかった点について自覚し、勉強し直すことができました。

専門医を取得できたことを励みに、今後も知識や技術の向上に努め、より良い活動ができるようにしていきたいと思います。

『専門医試験を終えて思うこと』



アズビル株式会社
人事部人事労政グループ
轟 美 和 子

産業医となって12年目、3冊目の研修手帳をもってようやく専門医となることが出来ました。

今まで常に周囲の人々に助けられる人生でしたが、今回も多くの方々にお力添え頂いて合格することが出来、感謝の気持ちでいっぱいです。

歩みの遅い私を12年も指導下さった廣先生。昨年の専門医試験に落ち、自信を無くす私に専攻医受験をアドバイスしてくれた同級生。勉強仲間がおらず困っていた時、声をかけてくださった先輩。勉強会の仲間や指導医の先生方。資料集めを手伝ってくれた後輩。チームワークで乗り切った同じ班の先生方。当日紛失した携帯電話を駅まで探しに行って下さったオンワード総合研究所の方々。そして何より、まだ1歳の子供と新幹線に乗り、試験が終わるまで会場近くで待っていた家族。

お世話になった方々への感謝の思いは、専門医として真摯に日々の業務に向かうことでお返ししたいと思います。本当にありがとうございました。

『日本産業衛生学会専門医になったの抱負』



厚生労働省
電離放射線労働者健康対策室
朝 長 健 太

厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課電離放射線労働者健康対策室の朝長健太です。この度は、日本産業衛生学会専門医試験に無事合格することができました。指導医の森朋子先生をはじめ、御指導いただきました先生方には厚く御礼申し上げます。

今回の試験を通じて、知識の整理ができたことは、日々の業務の精緻さを向上させることに役に立ちました。特に、試験勉強期間中の業務において、疫学に関する勉強がそのまま役立ったときは驚きさえ覚えたほどです。

産業医に求められる業務の幅は、小職が産業医を始めた8年程前と比べても、ストレスチェックの義務化、化学物質に関してリスクアセスメントの実施義務化等、新たな取り組みが必要になったと感じております。今後も、更なる産業医の専門性の拡大が想定されることから、それに伴い研さんに努めるよう兜の緒を締めてまいります。

先生方には今後とも御指導、御鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

『日本産業衛生学会専門医になったの抱負』



産業医科大学 若松病院
神経内科・心療内科
中 川 悠 子

このたび、日本産業衛生学会専門医試験に無事合格することができました。指導医の廣尚典先生、大神明先生をはじめ、ご指導いただきました先生方に心から感謝申し上げます。

専門医試験の準備においては、産業保健に関する知識を整理するとともに、これまでの自身の産業医活動を振り返ることができ、とても良い機会となりました。試験当日は、試験という場であるにもかかわらず、衛生委員会等で産業医より提案を行う際は優先順位を明確にすることなど、試験官の先生方から実務を行ううえで貴重なアドバイスをいただくことができ、大変勉強になりました。また、他の受験者の発表や意見を聞くことで、新しい視点や気づきが得られたことも非常に良かったです。

今後も心療内科臨床に従事しつつ嘱託産業医業務を行っていく予定です。専門医の名に恥じぬようさらなる研鑽を重ねていきたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

『産業衛生専門医になったの抱負』



宇部興産株式会社
総務・人事室健康管理センター
長 田 周 也

この度、産業衛生専門医と認定頂きました、宇部興産株式会社の長田周也です。改めて、これまで御指導頂きました先生方に感謝申し上げます。今から、4年前に臨床医から産業医となり、産業保健活動の実践の中で様々な経験を積むことが出来ております。ただ、振り返ってみると臨床医学の延長に留まるような状況も多くあったように思っております。産業衛生学の専門医としての活動は、さらに広い視点が求められると考えております。日頃の実践が一企業の産業保健活動に留まらず、より幅広いものとなるように、さらに研鑽を積んでいく所存ですので、これからは御指導御鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

『日本産業衛生学会専門医になったの抱負』



一般財団法人
京都工場保健会
西 田 典 充

この度、日本産業衛生学会専門医試験に合格しました。指導医の森口先生、櫻木先生をはじめ、同僚の先生方、京都工場保健会の職員の皆様に支えられた結果であり、この場をお借りして御礼申し上げます。

私は浜松医科大学出身で、臨床研修を終了後、当会に入職しました。今回、専門医を取得できたことは学生時代からの、「予防医学を仕事とする」夢を実現させる第一歩であると考えています。当会で働き、産業医として仕事をする中で、次の目標として「予防できるはずの病気で苦しむ人がいない社会を形作る」ための仕事がしたいと思うようになりました。専門医として、キャリアを通して挑戦していこうと思っています。

とはいえ、今回の試験を受ける中、まだまだ知識、経験、能力が不足していることも痛感しておりますので、合格をスタートとして今後も研鑽を積んでいく所存でございます。引き続きご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

『日本産業衛生学会専門医になったの抱負』



大阪がん循環器病予防センター
循環器病予防部門
羽 山 実 奈

このたび第25回専門医資格認定試験に合格することができました。指導医の先生をはじめ多くの先生方、事業場の方々のご指導ご支援に心より感謝申し上げます。

7年前から嘱託産業医となり、職場に入って健康管理を行うことで見えてくる職業生活と健康上の課題に触れ、働く人の健康を守ることの難しさと重要性を学びました。病院では出逢うことができなかった製造業等を支える現場の方々、人事・総務、産業保健スタッフが一体となって成果を上げる仕事に魅せられました。専門性を高めたい希望を持ち、旧制度から研修を開始いたしました。経験と知識の不足を埋められるよう、本学会主催の研修会、OHAS等に参加し、多数の先生方から熱いご指導を賜りました。同じ志を持った仲間と議論した時間は一番の思い出となっています。

今後も実際の職場で役立つ仕事、研究に邁進してまいりたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほどを、よろしくお願い申し上げます。

『日本産業衛生学会専門医になったの抱負』



HOYA株式会社
HOYAグループOSH推進室
松岡 朱理

この度、専門医試験に合格することができ、ご指導・ご支援賜りました先生方に心から御礼申し上げます。この3年間はとても密度が濃くとても充実した期間でした。初めは自分の対応に全く自信が持てず、指導医の先生や先輩方に相談してばかりの日々でしたが、多岐にわたる実践経験を積める環境に身を置けたことで、少しずつ自分なりの考えや根拠をもって活動できるようになりました。また、試験勉強の過程や試験当日は、これまでの活動の振り返りや知識の整理の良い機会となったと同時に、今後の自身の課題も認識した機会でもありました。専門医の名にしっかり責任を持ち、少しでも多く社会に貢献できる産業医になれるよう成長し続けたいと思います。そして将来、ご指導いただいた先生方のように、専門医の育成など産業保健の発展に貢献できる指導医となれるよう、真摯に取り組んでいきたいと思っています。今後とも御指導の程よろしくお願い申し上げます。

『日本産業衛生学会専門医になったの抱負』



本田技研工業株式会社
鈴鹿製作所 健康管理センター
道井 聡史

産業医を始めてからのこの3年間を振り返ってみますと、1年目で右も左も分からない状態だったときには宮本先生を始めとする君津製鐵所関係者の皆様から、2～3年目は大神先生や産業医科大学産業生態科学研究所の諸先生方から大変熱い指導を受けることができました。そもそも産業医を志すきっかけとなったのも様々な産業医の先生方の出会いから始まっており、私の周囲の恵まれた環境のおかげで、ここまで到達できたのだと心から感謝しております。

本年度より全く新しい環境に移ることになりましたが、弊社の産業保健スタッフだけでなく、出身大学の繋がりや外部医療機関との連携など次々と新しい出会いがあり、大変恵まれている状態です。これからは私の周囲で働いている従業員と一緒に産業保健を築いていくメンバーへ得られた知識をお返ししたいと思っています。

今後も自己研鑽を続けていきたいと思っていますので、ご指導ご鞭撻を宜しく願います。

『日本産業衛生学会専門医合格に寄せて』



産業医科大学
ストレス関連疾患予防センター
宮崎 洋介

この度、日本産業衛生学会専門医試験に合格することができ、晴れて専門医としての第一歩を踏み出すことになりました。これまで指導をしてくださった先生方や、多大なる支援をしてくださった皆様に深く感謝申し上げます。

大学を卒業後、臨床研修を経て産業保健の世界に飛び込み、現場で得た様々な経験が私の財産になっていましたが、今回の専門医試験の勉強を機に改めて産業保健に臨む自分自身の姿勢を振り返ることができたこと、そして、これまで得た知識や思考過程を一旦整理することができたことで、より体系化された産業医学への理解を得ることができたと感じています。

これからは専門医として働く方々により質の高い支援を行うこと、そして産業保健の視点からこれまで以上に社会貢献することを目指して精進していきたいと思っています。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

『日本産業衛生学会専門医になって』



日本郵政スタッフ株式会社
近畿郵政健康管理センター
村井 佳代子

循環器内科、総合内科専門医として30年間病院勤務し、5年前より専属産業医として勤めています。医局人事に恵まれず、中小病院で働いていましたが、それが幸いしてか近隣の事業所からの依頼で20年の嘱託産業医の経験があります。産業衛生専門医試験にあたって、この年齢で記憶することは大変でしたが、指導医の先生から数字を覚えるより考え方が大切であると言葉を頂き勉強しました。今回の試験では臨床経験の知識も役立ったと思います。産業衛生の基礎は合格点を頂いたと思いますので、これからも意欲ある限り、深掘りしていきたいと思っています。産業衛生の現場では、長年臨床で培った人をみる観察力その他が役立っていると思います。

最後になりましたが、指導医の先生、産業医大関連の研修会でお世話になった先生方、現在の職場の温かい人々にお礼申し上げます。

『日本産業衛生学会専門医になったの抱負』



三菱ケミカル株式会社
四日市事業所
総務部健康支援センター
安 田 佑里那

この度、無事日本産業衛生学会専門医試験に合格することができました。これまでご指導・ご支援いただきました先生方、合格を目指して一緒に励まし合った同期にこの場をお借りして御礼申し上げます。

専門医試験受験にあたり、過去3年間の活動を体系的に振り返る機会を得ることができました。そしてその中で、労働衛生に関する法令や指針についての理解がまだまだ浅く、整理が不十分であったことに気づくことができました。

今回専門医試験に合格することが出来ましたが、今後は一つ一つの事項についてその背景情報を含めて丁寧に理解し、知識を整理した上でわかりやすく他者へ説明できるよう引き続き鍛錬を積むとともに、これまで以上に職場や地域へ貢献できるよう精進して参りますので引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

『産業衛生学会専門医になったの抱負』



三菱日立パワーシステムズ株式会社
横 谷 俊 孝

この度、専門医試験に無事合格することができました。初めにこの場をお借りして、ご指導・ご支援いただきました北原先生と堀江先生に御礼申し上げます。

今年は、専攻医施行によって取得後3年目に受験することが当然になったことに加え、専攻医資格によって免除されると思っていた筆記試験が復活しました。暗中模索での専門医試験は、戦々恐々でしたが、なんとか合格することができました。まずは胸を撫で下ろしております。

専門医となり、ようやく1つのゴールとともにスタートラインに立ったところですが、今度はコンサルタント、社会医学、学位とイベントが控えているので、落ち着けそうにありません。

同じ道を志す同輩と近場で飲みながら、現場経験を共有し、苦労も共有しながら一步一步現場に根差した産業医としての専門性を確立させていきたいと思います。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

『産業衛生学会専門医としての抱負』



NTT東日本健康管理センタ
吉 永 英 史

産業衛生学会専門医試験受験にあたり、ご指導賜りました先生方に、この場を借りて御礼申し上げます。試験を通じて感じたことは、産業衛生学会専門医試験がチームワークや協調性を非常に重要視しているということです。

日頃より産業医業務を遂行するためには周囲との協力が必要不可欠な物であるということは実感していたのですが、当日のグループディスカッションや課題発表の場で改めて、それを強く感じました。今回、様々な分野で活躍される先生方と一緒に受験できたことは幸運であり、自身の仕事に対して真摯に向き合おうと再認識するよい機会となりました。

産業保健分野は、今なお多様に変化しており、先人たちの不屈の精神や知恵が脈々と受け継がれていることを感じます。その流れを拓けるべく、今後は、指導医を目指し後輩の育成に関わることが出来るように、また職場でリーダーシップを発揮できる専門家として、日々の研鑽に努めて参ります。

緑 十 字 賞 に よ せ て



『これまでの産業医生活を振り返る』

(東海地方会)

大同特殊鋼(株) 統括産業医 齊 藤 政 彦

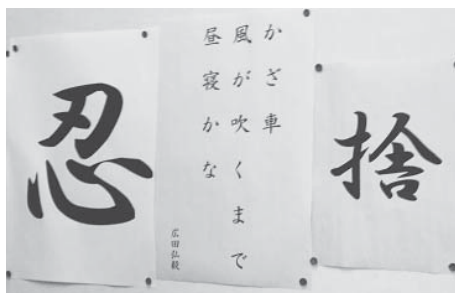
このたび、栄えある緑十字賞をいただくことができました。職場の安全衛生に携わってきた産業医としては、この上ない名誉と思います。同時に一つの区切りを感じます。大同特殊鋼(株)の専属産業医となって二十年、振り返ってみると色々なことがありました。

そんな中で、産業医あるいは産業医業務に対する見方や考え方が大きく変化したことに驚かされます。当初は、自分でなんとかしようと、我武者羅に取り組みました。がしかし、なかなか進まず、忸怩たる思いに悩むことの連続でした。それがある時「産業医は脇役」ということに気付き、主役である従業員や職場をその気にさせる環境作りが役割、と見極めて活動するようになると、周囲にも受け入れられ、自身も楽になりました。

「かざぐるま、風が吹くまで昼寝かな」座右の銘として部屋に掲げてあります。必要とされる時、つまり風が吹いた時に回り、それ以外は、ゆとりを持つことを心がけています。風がないのに回ろうとすると、自分も周囲も擦り切れてしまいます。忍耐の連続と言ってよく、思うようにならない事態に、壁に張った『忍』の字を見詰めて、ぐっと我慢したことは数知れません。また、主役を活かすために、敢えて拘りを捨てるという姿勢も大切と考えます。

脇役は寂しいものです。そんな中、日本産業衛生学会などの学会活動を初めとする社外活動が、いつの間にか生き甲斐になりました。職場では脇役、でも『人生では主役』。人にはいくつかの舞台があります。仕事、家庭、趣味、社会奉仕、すべてで主役を演じることは困難でしょう。一つでも主役であれば、他で苦しいことがあっても踏ん張れます。

産業医は基本一人で業務をしています。孤独です。支え合っていくことが大切と考えます。人間関係の中で生かされていると、最近強く感じます。多くの方々に支えられてきました。また今も多くの人



自室の壁の写真です



授賞式会場で車谷先生と廣部先生と共に

に支えられています。それらの人に対する感謝の念が強いです。『忍』を強いられたこともありましたが、一方で社外活動を黙認してくれる会社にも感謝です。家族にも感謝です。出会ったすべての人に感謝です。これからもいろいろな活動を続けていこうと考えています。でも、無理はしないつもりです。無理は続きませんし、上手くいきません。目標を絞って生きていきたいと考えています。これからも宜しくお願いします。



『産業医活動35年を振り返って』

(近畿地方会)

阪神労働衛生コンサルタント代表 廣 部 一 彦

こんなに長く産業医をするとは、私自身も周りの誰も思っていなかったと思います。医局講座制反対の青医連活動の中で、入局せず自分たちで大学研修方式を作り、就職先の病院も交渉して臨床医を目指していました。その後大学に戻った時、縁あって都銀の専属産業医に誘われ、後先考えず大学を飛び出し産業医活動を始めたのが35歳の時です。

職場の診療所機能は充実していましたが、さて産業保健活動はどうすれば良いのか、暗中模索でした。そんな中で私が今まで産業医活動が続けることができたのは「関西産研」と「サンユー会」のお陰と思っています。

「関西産研」は新生の研究会として1990年にスタートしました。当時イトマン（株）の産業医で医師会長をされていた阿部源三郎先生を会長に戴いて関西の若手産業医が中心になり、産業医・産業看護職が現場感覚で、学会では味わえない本音の討論ができる研究会となりました。現在28年目を迎え、会員数も600名を超え、産業保健の研究会としては我が国最大の規模になりました。「関西産研」の発展とともに私も成長してきたと思っています。

もう一つの私の大きなバックボーンが「サンユー会」です。1994年10月に、故高田和美先生（会長）を中心に我が国初めての専属産業医を中心とした全国組織「サンユー会」が創設されました。創設時は全国から約300人の産業医が友を求めて集い、その輪は次第に広がり10年後には全国約700名の産業医が集う大組織となりました。

私が担当した学術実務委員会では、会員アンケート調査とともに次の3つの疫学調査を順次スタートしました。

1. 3Mスタディ（Morbidity of Myocardial Infarction Multicenter Study in Japan、全国職域心筋梗塞発症率調査）
2. QQプロジェクト（在職死亡調査研究）
3. MHプロジェクト（メンタルヘルス不調による長期欠勤者の調査研究）

実務委員の先生方の長年にわたるボランティア活動にて、データ集め、解析、学会報告、論文化がなされ、我が国の貴重な疫学データとなっています。

社業とは無関係の「サンユー会」活動にご支援を頂いた万有製薬の長坂社長に心より感謝申し上げます。

私自身は、この会を通じて熱心な全国の産業医の先生方と、また産業医大の1期生～5期生の若き（当時）新進の産業医の先生方との交流ができ、それが現在まで続いており、私の大きな財産になったと感じています。

今回の受賞にあたり、「関西産研」、「サンユー会」、産業衛生学会等の各学会を含め、今まで多方面でお世話になりました方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



受賞者を囲む会で、斉藤先生、宮本先生と共に

社会医学系専門医制度の紹介



『社会医学系専門医制度の背景と意義』

産業医科大学 森 晃 爾

2017年4月より、社会医学系専門医制度が開始された。日本産業衛生学会は、この制度を運営する社会医学系専門医協会の構成団体であり、産業衛生専門医制度は、同制度のサブスペシャリティ領域として位置づけられることになった。ただし、臨床系専門医からの移行については、別途検討されている。社会医学系専門医制度の解説に関しては、すでに関連他誌で解説がなされているため（今中：産業医学レビュー30(2)、2017、森：産業医学ジャーナル40(6)、2017）、ここでは、制度ができた理由、社会医学系専門医を取得するための方法、この制度の生み出す価値について解説する。ちなみに筆者は、同制度の研修プログラム認定委員長を務めている。

1. 制度ができた理由

端的に言えば、制度を作らざるを得なかったということである。2014年5月に（一般社団法人）日本専門医機構が発足し、すべての医師が何らかの専門医を取ることを目標とした専門医制度が検討されていた。当初、産業衛生専門医を基本領域の専門医として位置づけるべく活動を行ってきたが、基本領域が総合診療を含む19領域であることがほぼ確定したため、何らかの制度を作ることが必要になった。そこで、危機感を共有した社会医学系6学会、衛生関係4団体が大同団結したことが、制度創出の理由である。

2. 社会医学系専門医を取得するための方法

同制度はプログラム方式を前提としているため、専門医資格を取得するためには、いずれからのプログラムの専攻医となり、研修を修了したうえで専門医資格認定試験に合格する必要がある。2017年7月現在、62のプログラムが申請されており、認定されたプログラムは、順次、社会医学系専門医協会のホームページに掲載されている。また、スタート段階では、社会医学系での研修（業務）をフルタイムで行うことを前提としていたが、3年を超えるプログラムの提供を可能とすることによりパートタイムでの関わりでも取得を可能にする予定である。

3. 制度の持つ価値

一括りで社会医学系といっても、かなり幅広い領域をカバーしており、これまでは社会医学を担う医師の知識や経験のバックグラウンドに大きな隔たりが存在した。本制度によって一定の質が確保される。また、基本知識を同じくするための基本プログラムの必須化、行政・地域、産業・環境、医療の3分野について、主分野以外の分野も副分野として一定の現場学習を義務化したことによって、地域・職域の本格的な連携や新たなキャリアパスが創出されることが期待される。

『社会医学系専門医 産業医科大学プログラムがスタート』



産業医科大学
産業生態科学研究所 所長 **森 本 泰 夫**

社会医学系専門医を養成するための産業医科大学プログラムが本年度から開始されました。本専門医制度は、産業医学・公衆衛生や保健医療行政などの社会医学系領域の基盤となる知識や技能を習得することを目的として設立された制度であり、本学プログラムでは、社会医学系専門医の取得もさることながらその後のサブスペシャリティである日本産業衛生学会の専門医・指導医をめざすステップとしての位置づけも含まれています。

2016年12月に本専門医制度の経営母体である社会医学系専門医協議会が法人化され「一般社団法人社会医学系専門医協会」が設立され、最初の専門医プログラムとして認可を受けました。本プログラムを研修体制としては、産業医科大学を基幹施設として、研究連携施設に企業や企業外労働衛生機関、福岡県・北九州市の保健所等から構成されております。また、研修プログラムが適切に運用するための研究プログラム管理委員会が設置されており、本学、研究連携施設の社会医学系指導医によって運用されております。研修期間は3年間を基本としており、オン・ザ・ジョブ・トレーニング、課題解決型学習、事例検討のためのカンファレンス、などを通して専門的な知識の習得をめざしています。研修内容としては、大きく基本プログラム、現場での学習、研究活動に分かれております(表1)。

基本プログラムは、社会医学領域の専門医の基礎知識を得るためのプログラム(7単位、49時間以上)です。平成29年度から当大学で実施している産業医学基本講座の科目に、基本プログラムに対応する科目がすべて含まれており、基本講座を修了することにより、基本プログラム修了とみなしております。この基本講座は、今年から本学開催以外に東京でも開催しており、本学開催分は4月から5月の約2か月間(月曜日から土曜日の全日)、東京開催では6月から10月の約5か月間(週2回の夜間と隔週土曜日)の研修期間となっております。いずれの開催でも基本プログラムの習得は可能です。

現場の実習では、主分野ひとつと副分野(全過程で30時間以上の学習が必要)ふたつの履修が必要であり、本学の主分野は、必然的に産業・環境となるため、副分野は行政・地域と医療になっておりま

表1 産業医科大学研修内容

- ① **基本プログラム** : 産業医学基本講座(7単位)
- ② **現場での学習**
 - 主分野 産業・環境
産業医科大学(2年間): 産業医学研究・産業医活動
企業(1年間): 産業医活動
 - 副分野 行政・地域
福岡県・北九州市保健所: 所管業務(保健、感染症等)
 - 副分野 医療
産業医科大学: 医療機関の所管業務(医療安全等)
- ③ **研究活動** : 日本産業衛生学会など関連学会等で発表(筆頭)
- ④ **自己学習**

す。産業・環境では、主に本学では、各研究室で実施される産業医学研究や嘱託産業医活動、また企業や企業外労働衛生機関などの職域機関での産業医活動を通して研究課題や現場の実践的課題の解決方法を経験し、専門医に必要な技能の習得を目指します。行政・地域に関しては、福岡県・北九州市保健所に、年に数日訪問し、保健所が所管する業務(感染症・食中毒の対策、疾病予防、母子保健、精神保健など)に対して各種会議への参加、調査・研究への参加、地域の施設見学、地域の保健医療関連データの解析・まとめ、各種業務に関連するプレゼンテーションなどの研修を行います。また、医療においても、本学大学病院の病院管理を目的として、医療安全管理委員会、病院感染病医委員会へのオブザーバー参加を必須として、診療録管理委員会、医長連絡協議会、感染制御部定例会議、感染防止対策加算に基づく地域連携カンファレンスなどへの参加、現場・施設の全貌の視察、医療関連データの解析、実践関連テーマに関する調査・まとめ、関連するプレゼンテーションとそれに関する質疑応答を行います。

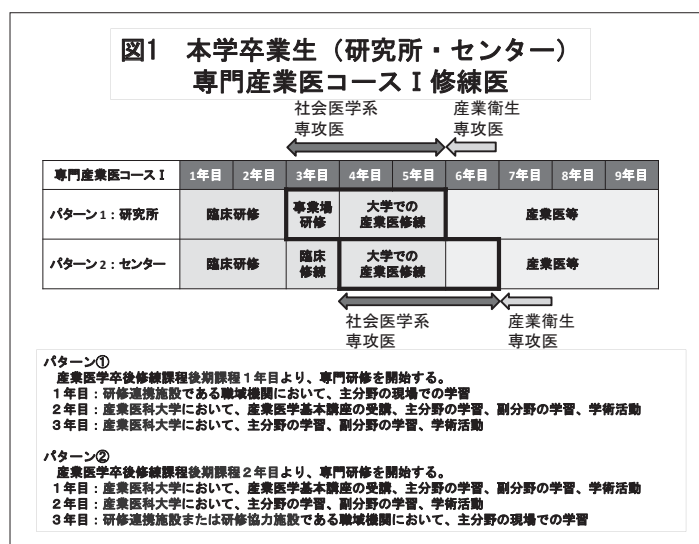
学術活動においては、研修期間中に関連学会の学術大会等での発表(筆頭演者に限る)または論文発表(筆頭著者に限る)1件以上を行うことが求められています。本プログラムでは、日本産業衛生学会や同全国協議会、国内外の産業保健の関連学会において口頭・ポスター発表、論文発表などを目指します。本学2年間の研修期間中に与えられた(または、希望した)研究テーマに対して、解決するための手法を学び、実践・検証し、最終的に結論を導き出すプロセスを習得し、抄読会やオリオンゼミ等のカンファレンスなどに参加して意見交換などを行い、学術的成果物として完成度を高め、発表を行います。

これらの研修を、どのようにして受講するか、修練のパターン別、すなわち、本学卒業生(研究所・センター)、他大学卒業生、連携施設在職者の場合に分け説明いたします。

1) 本学卒業生(専門産業医コースⅠ修練医)(図1)

専門産業医コースⅠ修練医は産業生態科学研究所と産業医実務研修センターのいずれかに所属しており、両者において、修練パターンが異なります。まず、研究所においては、初期臨床研修2年後の3年間は社会医学系専門医修練期間として位置付けています。3年間の初年度に研修連携施設である職域機関において、主分野の現場での学習、次年度以降の2年間で、大学に帰学して、基本講座の受講、主分野、副分野の学習、学術活動を行います。センター所属

の場合は、いくつかのバリエーションはありますが、主なパターンは、初期臨床研修を含め3年間の臨床研修を行った後から開始となるパターンです。初年度、次年度は、本学にて、基本講座の受講、主分野、副分野の学習、学術活動を行い、最終年度は、就職先である研究連携施設の承認を得た職域機関にて主分野の学習を行います。本社会医学系専門医コースは、研究所では平成27年度卒業、センターでは平成26年度卒業から開始されています。それ以前の卒業生は、社会医学系専門医の移行措置にあたるので、社会医学系専門医協会のホームページ(<http://shakai-senmon-i.umin.jp/>)を確認して、専門医や指導医の申請していただきたい。



2) 他大学卒業生の場合 (図 2)

修練パターンとしては、上記の専門産業医コース I 修練医の 2 つのパターンと同じですが、在籍の仕方が異なります。ひとつのパターンは、初年度に研修連携施設である職域機関に在籍し、主分野の現場での学習、その後の 2 年間は、本学大学院（全日制）に在籍し、基本講座の受講、主分野、副分野の学習、学術活動を行います。もう一つのパターンは、最初に本学大学院（全日制）に在籍し、基本講座の受講、主分野、副分野の学習、学術活動、最終年度は、研修連携施設に承認された職域機関に在籍し、主分野の現場での学習を行います。

3) 研修連携施設在職者の場合 (図 3)

研修連携施設と認定された職域機関に在籍し、本プログラムの研修を行います。産業医学基本講座や副分野の受講などが主な本学との連携内容と思われるので、3 年間のうちに本学にて習得してもらうこととなります。

また、研修終了後に、社会医学系専門医試験があり、これに合格して社会医学系専門医となります。

さらに、次のステップとしての日本産業衛生学会の専門医取得を目指すわけですが、通常であれば 3 年の産業医実務修練期間が必要です。しかし、社会医学系専門医のプログラムと一部重複していると考え、この修練期間の短縮化が図られています。日本産業衛生学会の認定研修施設で、産業医実務研修を 1 年間 (3 単位：週 3 日の履修を 1 年間) または、2 年間 (6 単位：週 3 日の履修を 2 年間) 行うことで、専門医試験資格が得られることとなります。今後は、社会医学系専門医、日本産業衛生学会の専門医・指導医の取得が産業医学の専門家としてステータスになると思われるので、ぜひ取得していただきたいと考えます。

図2 他学卒業生の研修：産業医科大学大学院生等

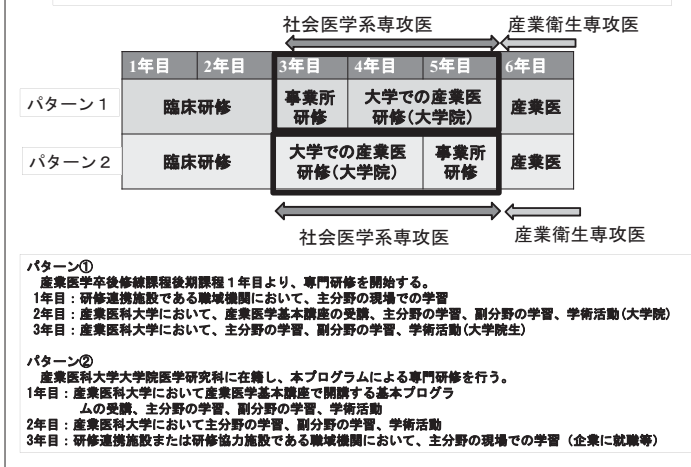
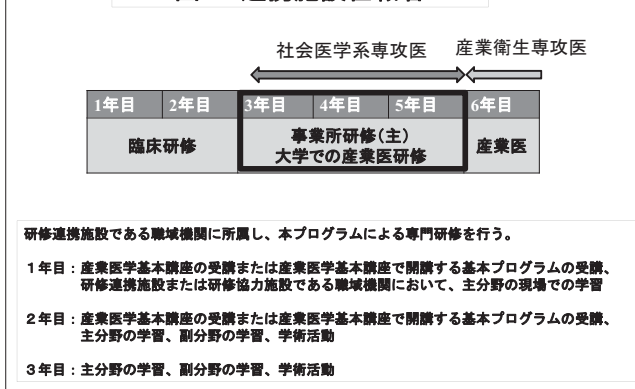


図3 連携施設在職者



社会医学系専門医制度の関連記事情報の紹介

既刊の医部会報に社会医学系専門医制度についての情報が掲載されております。これまでの社会医学系専門医制度の関連記事情報は下記となります。尚、既刊の医部会報は産業医部会 HP (<http://www.on-top.net/ibukai/kaiho.html>) に掲載されております。どうぞ、ご活用下さい。

- ・「社会医学系専門医制度の運用開始について」(59号 P 8、9)
- ・「日本産業衛生学会「社会医学系専門医」指導医 本登録のお願い」(59号 P 9)
- ・「社会医学系専門医等と産業衛生専門医等の経過措置について」(60号 P 13)
- ・「日本産業衛生学会専門医制度の改定について」(61号 P 2、3)
- ・「社会医学系専門医制度での研修施設について」(61号 P 4)

編集委員会

〈お知らせ〉2018年度から認定される経過措置専門医・指導医の申請について

申請期間：2017年12月1日～31日

(詳細は社会医学系専門医協会ホームページ<http://shakai-senmon-i.umin.jp/>をご覧ください。)

シリーズ 私たち頑張っています！



『病院産業医としてのスタート』

(東北地方会)

石巻赤十字病院 産業医 荒 川 梨 津 子

石巻赤十字病院で専属産業医をしております、荒川と申します。この度は執筆の機会をいただき、誠にありがとうございます。

平成23年に産業医科大学を卒業し、初期研修を経て東北大学大学院医学系研究科産業医学分野に4年間所属しました。大学院卒業後、県内で専属産業医として働くことを考えていた私に、研修先であった石巻赤十字病院の先生より、産業医として当院に戻ることをご提案いただき、この春から専属産業医として勤務しています。

現在の主な活動は、病院職員の健診フォローアップを中心とした健康管理やメンタルヘルス対策、長時間労働対策など基本的なことはもちろんですが、医療機関特有の活動として、ホルムアルデヒドやエチレンオキシド等の化学物質および放射線の取り扱い業務における健康管理や、針刺し事故・体液粘膜曝露等による職業性感染の対策等が挙げられます。いずれも、これまでの取組みや体制を見直し、十分に機能していないところや新しい体制を構築すべきところを指摘して、より良い形になるよう少しずつですが取り組んでおります。また、過重労働対策においては、医療従事者が対象となるとより一層難しい問題であり、頭を悩ませているところですが、病院全体として取り組むべき課題として、医師のみならず多職種において働き方を見直すところから活動を推進しているところです。

当院のような急性期病院であえて産業医に専従していると、異質な存在に思われることも多いと感じております。しかし、少しずつ産業医の存在と活動を知っていただくことで、声を掛けてくださる方や活動を支援してくださる方が増え、活動内容が充実していくのと同時に私自身働きやすくなってきたと実感しております。何より、いつも患者の治療や看護を第一に考え自分のことは後回しにしがちな職員が、産業医の存在や活動を通して、自身の健康や働き方について改めて考えるきっかけになりつつあることが大変嬉しく、それが私自身の励みにもなっています。

まだまだ経験が浅く、思うようにいかないことばかりで、躓いては自信を失くす毎日ではありますが、東北大学・産業医科大学の先生方をはじめ多くの先生方にご指導いただき、産業医活動を継続できております。今後も、少しずつでも着実に知識と経験を積み重ね、この仕事に邁進する所存です。どうぞ、今後ともよろしくお願いいたします。



『ママ産業医、頑張ってます!! 産業医さくらのさすらい日記より』

(関東地方会)

株式会社 さくら事務所 山 越 志 保

始めはお金目当てでした。自分でもこんなにはまっちゃうなんて思ってませんでした…男の話じゃありません。産業医の話です。毎晩夜中まで、医師転職サイトで「割りのいいバイトはないか～」とネットサーフィンしていると、ふと目に留まった「産業医案件」。

そして、30歳の初体験。産業医デビューです。名刺の渡し方って？応接室ではどこに座るの？ 担当の方の前でうまく話せるかな…何もかもが初めてなのに、どうして誰もなんにも教えてくれないんだろう(泣)。そして、「産業医の先生から問題社員に、会社を辞めるように言ってくださいよ」なんてトンデモない依頼も。いくら若造のわたくしでも、それはあかんやろ、それ人事の仕事だよって思って「それはできませんよ」(ニッコリ)なんて、やんわり断りました。今ならソッコウ般若の顔して「労務管理は、企業人事担当者の問題ですっ!!!」て切り返しますが。

大学病院に勤務し研究しつつ、臨床医も継続、会社設立し産業医もしております。実は私が一番、過重労働なんじゃないのと思いつつも、月曜日から土曜日までノンストップのフル稼働。これでもわたくし、ママドクターなのです。

「ただいま～」というわたくしの声に、3歳の愛娘の小うめちゃんも「ただいまっ」と答えて、玄関まで走って迎えに来ます。まだ「おかえり」って返事することを知らないのです。「お母さんとお風呂。明日はお父さん」う～ん、おっかしいな…昨日も同じセリフを聞いたような～。二人で湯舟につかっていると、小うめちゃんが、ため息をついて、悲しそうに母の顔を見つめます。そして「お母さん、お父さんと結婚しているの？」と尋ねてくるのです。心のうちで「あっこれはもしかして、お約束の、大きくなったらお父さんと結婚するってやつか～!」と思った次の瞬間ー「小うめちゃん、残念。小うめちゃん、お母さんと結婚したかったのに…」と。って、えっええ～?(目が点!)そして次の瞬間、とっても嬉しい!! しかも今まで感じたことのない幸福感。専業主婦のママに比べて一緒の時間は少ないけど、びっくりするほどママっ子な小うめちゃんに救われてる毎日です。

今日は、いつもの人事担当者の横に人事部長も一緒に、やけに妙な顔つき。どんな爆弾だろう? ドキドキしながらも平静を装い、軽やかに「何かありましたか?」と尋ねます。すると、おもむろに『もう十年近く、わが社が抱えているメンタル不調の社員の件で…』あ～あ、来た来た、やっぱり爆弾だよ。しかも10年って、ながっ! 熟成してるじゃん!!

こんな始まりで、こんな毎日ですが、これからも日本産業衛生学会産業医部会員として学ばせていただきたいと思います。ご指導の程お願いいたします。



『現在・過去・未来』

(東海地方会)

三菱重工業

名古屋航空宇宙システム製作所 大江健康管理科

仁 瓶 宗 樹

三菱重工業 名古屋航空宇宙システム製作所 大江工場で産業医をしております仁瓶です。専属産業医として5年目を迎えましたが、まだまだ至らないことも多く、日常の業務でも右往左往しています。幸いなことに、当社は名古屋地区だけでも複数の工場があつて諸先輩方にいろいろ教えていただき、助かっております。

わたしは1991年に医師免許を取得し、2年間のローテート研修の後、循環器内科医、基礎研究、家庭医などを経て、縁あつて2013年に現職につきました。医師になって、いつのまにやら四半世紀経ってしまいましたが、「がんばってます」等と言えるようなことは思い当たらず、なんとなく流されるままに過ごしております。

過去を振り返ってみれば、いろいろな変化を目にしました。1991年の抗不整脈薬の大規模試験CAST studyで不整脈の薬物治療が大きく変わりましたし、1990年代の他の大規模試験の結果、心不全に禁忌だった β 遮断薬は、いまでは有効な心不全治療薬の一つとされています。1994年には、冠動脈ステント留置術が始まりました。当初は手技等が難しく苦勞しましたが、デバイスの改良や薬物溶出型ステントの登場等で格段に容易で安全なものになりました。2008年には、特定健康診査・特定保健指導が始まりましたし、Hibワクチンの接種等も始まりました。

その一方で、1990年代前半まで広く使われていた脳代謝改善薬に、効果が無いことが判明して発売中止になったことがありました。華々しく登場した薬剤やデバイス等でも、市販後に市場から撤退した事例は他にも目にしました。世の中、良い方向に進んでいくこともあれば、予想に反してうまくいかないこともあるものだ、としみじみ感じます。

未来を予測することは難しいですが、やはり「2025年問題」は避けられないと思います。未曾有の超高齢化に伴って社会保障費は増大し、少子化に伴って財源の確保はますます難しくなりそうです。他方、将棋のAI(人工知能)ソフトが将棋名人を破ったことが最近ニュースになりました。AIやIoT(物のインターネット)、スマートデバイス等のあたらしい技術等は、2025年問題対策のみならずこれからの医療・保健衛生サービスの高度化・適正化・効率化に不可欠だと思います。

未来は先行き不透明なことも多々ありますが、良いと考えられることを、PDCAサイクルを回しながら着実に実現していけたら、と思うきょうこのごろです。

種子島ロケットの丘展望所にて



シリーズ はじめまして！



『はじめまして！』

(九州地方会)

産業医科大学

産業生態科学研究所作業関連疾患予防学研究室

白坂 泰樹

はじめまして！ 産業医科大学卒業で、現在産業医大の作業関連疾患予防学研究室に所属しております白坂泰樹と申します。簡潔に、経歴を説明させていただきます。現在医師として4年目になりますが、初期臨床研修を福岡新水巻病院で行った後、千葉県の新日鐵住金株式会社君津製鐵所で1年間産業医学を学びました。そして今年の4月に産業医科大学に戻り、大学院に通いながら、嘱託産業医活動等を行っております。嘱託産業医先は8つで、製造業が多く、粉塵、騒音、有機溶剤、特化物、暑熱等、工場好きな自分としては大変楽しく仕事が出来ております。

産業医としては1.5年しか経っていないということで、知識も経験も少ない状態です。課題は多いですが、その1つがプレゼン能力です。企業に出務させて頂く際は一企業の社長、部長層の方々を前に話をすることもあれば、講話で50人以上の従業員の方々を対象に話すこともあります。自身もそうですが、どんなに中身が充実していて大事な話でも、表現が難しすぎる、意図が伝わりにくい、伝えたいことが多すぎる、プレゼンの文字が小さい、等の話は眠くなります。そこでいつもプレゼンで心がけるのが、①具体的に対象はどのような方々なのか（健康講話を例に出すと、健康に興味がある年齢層か、健診での健康状態はどのような人たちなのか、どのような職場環境か、等）②プレゼンを通して何を伝えたいのか（大事な知識や事実を伝えても、対象者が何かしらのアクションに移れないプレゼンはやる意義に乏しい…）③対象者の反応をもとにした振り返り（プレゼン後のアンケートや理解度を試す挙手など）などです。③に関しては、実施できない時もあるのですが、以上を意識して今後もレベルアップしていきます。

さて、駆け出しの産業医ということでよく考えるのが、将来どんな産業医になりたいか、ということです。どんな分野もある程度はそつなく知識や経験が必要となると思うのですが、“得意分野は欲しい”と考えます。好きなものこそ上手になれ、といいますが、個人的には有害業務をみるのが好きなので、その方面に強くなり、またその分野の仕事に将来就きたいと何となく考えています。

最後になりますが、今年結婚式を挙げます。（この文章を皆様に読んで頂けているときには“挙げました。”になっています。）家庭も大事にできる産業医になりたいです。今後とも皆様、何卒宜しくお願い致します。

初めての学会発表（2017年日本産業衛生学会）





『はじめまして』

(関東地方会)

東京電力ホールディングス株式会社
総合研修センター

杉 山 真紀代

東京電力総合研修センター産業医の杉山真紀代と申します。研修センターの健康相談室で、100名ほどの社員との面談や、センターに研修に来る社員への事後指導などを行っています。

昨年春に赴任した時は、まずは皆さんの健康状態を知る必要があると考え、会社で全員面談の実施をお願いし、100名余りの方と面談しました。時間のやりくりで苦労しましたが、ストレスチェックの結果を見ながら、お一人お一人と業務に対する色々な思いや体調管理の悩みについてお話しでき、やって良かったと思っています。また管理職の方と面識ができたことで、コミュニケーションがとりやすくなり、体調不良者への対応も、よりスピーディーにできるようになりました。

私は、大学卒業後、大学や関連病院で4年間研修したあと、消化器内科医として9年間、大学と地域の中堅病院に勤務しました。人手が足りず、ほぼ毎週土日にも出勤して病棟を回る生活でした。結婚、出産のため、いったん退職し、5年間主婦をしていましたが、働いている方の健康を応援できる産業医職に興味があったので、産業医として復帰しました。

最初に勤めた会社では、海外含め1400人ほどの健康管理とメンタル対応を行いました。メンタルの方はすぐに長時間労働ができるほど回復しないので、会社で配慮を続けてもらい、面談も継続して経過を見たい一方で、会社はそこまで待つ余裕がないという立場の違いがあり、その調整に苦労しました。ご縁があり、今の職場に移りましたが、メンタルの方との面談も健診の事後指導も丁寧な対応ができるよう心掛けています。

現在は、産業医、大学の人間ドック、会社の健康診断と週3日の勤務です。家に帰れば急いで夕飯を

つくり、子供のやったドリルのチェックをしています。

色々な研修に参加し、良い取り組みを教えていただくと、自分がどう会社で働きかけていくか考えます。私1人の力では動けないことも多く、看護師さん、人事・組合と交渉しながら進めていくことの難しさがありますが、まずは、自分が強い思いを持って動くことが必要と考えています。

「夏休みの家族旅行で訪れた八ヶ岳にて」



地 方 会 か ら の 報 告

**『四国地方会産業医部会
「第4回サマーセミナー in 高知」開催報告』**四国地方会産業医部会長 昇 淳一郎
松山記念病院

平成29年(2017年) 9月16日(土)に、当地方会産業医部会としては4回目となる標記研修会を開催しました。当日は台風18号が接近する中での開催となった関係で6名の部会員に参加いただきましたが、内容面で非常に有意義な研修会となりました。この場をお借りして、企画くださった杉原由紀先生に感謝申し上げます。

開催概要	日 程	平成29年(2017年) 9月16日(土)
	会 場	高知県立県民文化ホール(高知県高知市) 事務棟4階第7多目的室
	内 容	14:00~14:20 四国地方会産業医部会 総会 14:30~16:30 研修会「法律家と考える産業医の責任」 講師 矢野公士法律事務所所長 弁護士 矢野公士先生
	参 加 費	無料
	参加対象	日本産業衛生学会 産業医部会員 限定

研修会では、時間外労働あるいは雇用契約をめぐる新聞報道記事などを元に3題の事例が提示されました。各事例について、講師の矢野先生からは法律家としての一般的見解が示されるとともに、参加した各産業医からは実践的な意見表明が行われました。踏み込んだ内容の意見交換を行い、新たな視座を各自の実践場面に持ち帰ることができるという点は、本研修会の最大の効用として挙げられます。

元々、四国地方会では産業医部会独自の行事として、秋の中国四国合同産業衛生学会の折に中国地方会と連携して、産業医部会研修会を開催しています。同研修会は日本医師会認定産業医制度指定研修会として開催する関係で基本的事項をテーマに設定しており、産業保健領域の裾野の拡大につなげる事業として、既に定着しています。一方で、部会員でなければ触れることが無いような踏み込んだテーマ設定を行い、参加者を部会員に限定し、より実践的な知識を獲得できる研修会を開催すべきとの声が当地方会で高まっていました。そこで、医部会員限定の研修会を、平成26年よりサマーセミナーとして開催し、第1回(愛媛)、第2回(徳島)、第3回(高知)と回を重ねています。本研修会の参加対象者は産業医部会員であり、他地方会員の先生方のご参加も歓迎いたします。来年度以降も引き続き開催しますので、宜しくお願いいたします。

『第22回 近畿産業医部会研修会 参加体験記』



メインテーマ「産業医のための過重労働対策」

パナソニック健康保険組合 中 谷 素 子

過重労働は近年話題性が高く、働き方改革の掛け声とともに、職場では喫緊の課題としてひとまず対策はとられている印象はあります。ただ実際はまだまだ残業時間が多いのが現状です。産業医が一步でも進める具体的な方法があればと参加しました。

第1部の基調講演では、産業医科大学ストレス関連疾患予防センター宮崎洋介先生により、「過重労働による健康影響に関する最新のエビデンス」と題し、過労死の関連要因についてエビデンスに基づいたお話でした。各種統計資料や研究報告より、「循環器疾患リスクと、労働時間とは関連がありそうだが、労働時間と抑うつとの関連は現時点では言えない、睡眠が抑うつに関連している可能性がある」など、エビデンスを紐解きながら話され、様々な要因が絡み合っている労働現場の様子が伺えました。

第2部は、座長河津雄一郎先生によるシンポジウム「過重労働による健康障害を防ぐには」でした。まずは、専属産業医の立場から山田達治先生。なんと山田先生はスライドをお忘れで、急遽、手持ちの印刷資料をスライドにしてのご講演でした。スライドが見にくくなってしまったことを残念がっていらっしやいましたが、急なトラブルをジョークに変えられて寧ろ臨機応変なお人柄が伝わり、『メタボ面談でも過重労働は念頭に置いておく重要性』などのお話には説得力がありました。次に嘱託産業医の立場から梶原隆芳先生。梶原先生は諸業務を進めるうえでカウンターパート(現場担当者)との連携が重要であること、相手(主として過重労働対策をする場合は『事業主』)の琴線に触れることの大切さを話されました。琴線に触れるエビデンスを示すと、相手の腑に落とすことができ、諸対策を進めてもらうための原動力につながるということが具体事例とともによくわかりました。シンポジスト最後は、基礎医学の立場から和泉弘人先生。和泉先生は、ストレスの基礎から、今研究されていることにつなげての総論的なお話で、現在『労働者のストレスを評価するバイオマーカーの開発』をされているとのこと。その後のディスカッションからも研究対象としてのストレスの面白さが伝わってきました。



今回は産業医科大学ストレス関連疾患予防センターと近畿産業医部会との共催だったとことで、演者の平均年齢はお若い印象で、近畿地方会に新風が吹いている印象がありました。有意義な研修会をしていただき、関係された諸先生方に深謝いたします。

医部会新任幹事のご挨拶



『役に立たない医部会新任幹事の挨拶』

(北陸甲信越地方会)

大 芝 医 院 大 芝 玄

この度産業医部会幹事に就任いたしました大芝玄です。

私の専門は消化器外科で、全く産業保健にはご縁がありませんでした。2000 年 4 月に父親の後を継いで開業医となり、同時に 3 事業所の産業医も引き継ぎました。ここから産業保健に出会いました。2001 年に山梨産業保健推進センターの立ち上げの際、父親が産業保健に関わっていたご縁もあり、故佐藤章夫先生より相談員のお誘いを受け、本格的に産業保健を勉強する事になりました。その後労働衛生コンサルタントも取得しました。

山梨大学医学部には産業衛生学講座がないため、山梨県の産業保健は現在も県医師会が主導しています。産業衛生学講座がある大学と連携ができる地域には足元にも及ばないのですが、山梨の産業保健の向上に励んでいます。2014 年より山梨県医師会理事となり、同時に産業保健委員会委員長に就任し、山梨県の産業保健を切り盛りしていく立場になりました。その後も産業保健の役職を拝命し、毎年役職は増え続けています。2015 年に北陸甲信越地方会の産業医部会が創立され、当初から運営委員として関与できましたことは大変光栄に思います。2016 年は日本医師会産業保健委員会委員に選任されました。五十音順で隣席となったご縁で、日本産業衛生学会前理事長の圓藤吟史先生にご指導いただいております。そして 2017 年には産業医部会の幹事に選任されました。北陸甲信越地方会産業医部会運営委員会や産業医部会の幹事の先生方は皆さん産業保健に精通されており、私が幹事に就任するのは分不相応に感じております。役に立たないかもしれませんが、一生懸命幹事として仕事をさせていただきます。

平成 29 年度第 1 回の幹事会で話題になった産業医部会員を増やした方法をご紹介します。先に書きましたように北陸甲信越地方会産業医部会は 2015 年創立のため、山梨県の産業医部会員は皆無に等しく、日本産業衛生学会会員数も減少していました。そのため会員数を増やす事が甲信越地方会産業医部会運営委員の仕事と考えました。まず県医師会のネットワークを利用して日本医師会認定産業医の先生に電話やメールで連絡をとりました。日本産業衛生学会および産業医部会への同時入会を呼びかけ、先生方の了解を得て入会書類を送りました。山梨は小さい県のため、この方法で産業医部会員を増やせたかもしれません。他県の先生に参考にいただければと思います。



『新任幹事拝命のご挨拶』

(九州地方会)

三菱電機株式会社 長崎製作所 産業医 黒 崎 靖 嘉

皆さんこんにちは。このたび産業医部会幹事を拝命いたしました、九州地方会の黒崎靖嘉(くろさきしずか)と申します。前回近況報告を掲載頂いたのが2016年春の事。そしてこの原稿が掲載されるのは2017年12月号なのですが、書いているのは同年5月。1年ほどしか経っておらず目新しい話もないので、前回掲載後の経過も踏まえつつ自己紹介と近況報告をさせていただきます。入稿から掲載まで半年が経過しますので、この間に世間で本文章に関係する何かがあったとしても御容赦頂きながら御笑読頂ければ幸いです。

私は2002年に産業医科大学を卒業し、2年間の国立長崎医療センターでの臨床研修、1年間の三洋電機大東事業所(大阪)での産業医研修、2年間の大学研究所での研修の後、2007年に現任である三菱電機長崎製作所に産業医として着任しました。昨年の近況報告では産業医増員の求人活動中と書きましたが、なかなか進展がありません。普段の産業医活動とは勝手が違い、頭が痛いところです。

「長崎の産業医のメーリングリストを作ったが、メンバーが3人しかいない」という話も書きました。こちらは県医師会研修での講義の際に宣伝する等といった地道な活動により、何とか片手では数え切れない人数になりました。今の目標は両手では数え切れない人数です。

前回報告後の話題と言え、2016年は映画「シン・ゴジラ」「君の名は。」「この世界の片隅に」の3作品に圧倒された年でした。私も何度となく劇場に足を運びました。

スポンサーからの横槍にも負けず、自分の考えを貫き通して傑作を作り上げた庵野秀明監督。「緻密な情景描写」という自らの持ち味はそのまま、多くの人に楽しんで貰う為の要素を取り入れて爆発的な大ヒット作品を作り上げた新海誠監督。製作時にはスポンサーがなかなか見つからず大々的な宣伝も行われなかったという厳しい状況にも関わらず、地道に丁寧に作り上げていった作品の素晴らしさが口コミで広がりロングラン上映へと繋がった片渕須直監督。それぞれの監督の三者三様のスタイルは、自分の仕事に向かう姿勢にとって新たな指針となっています。

話し下手で人見知りである私が医部会幹事という大役を全うできるか非常に不安ではありますが、まずは「自分にできる事」「自分だからできる事」を意識して取り組んで参りたく存じます。これからどうぞよろしくお願いいたします。

「妻の実家で田植え中、農作業における労働衛生上の課題を検討」



部 会 員 か ら の お 知 ら せ コ ー ナ ー



『「企業ができる がん治療と就労の 両立支援実務ガイド」の御紹介』

(関東地方会)

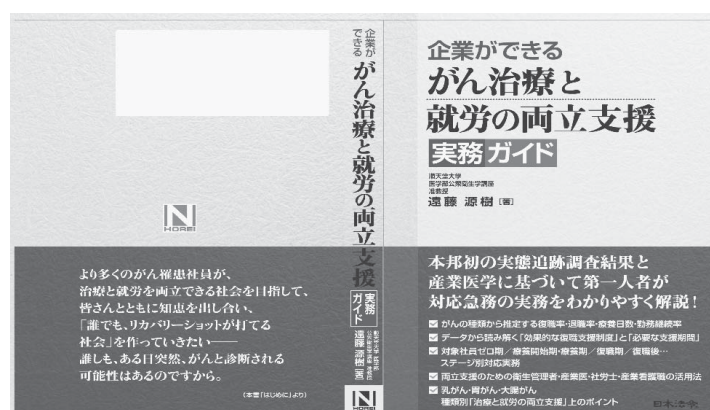
順天堂大学 医学部公衆衛生学講座 遠 藤 源 樹

「企業ができる がん治療と就労の両立支援 実務ガイド(株式会社日本法令)」は、日本で初めて実施した「がん罹患社員大規模病休・復職実態追跡調査」で得られたデータと産業医学をベースとした復職理論から、「がん時代」に企業に望まれる実務を実践的に解説した初めての書籍である。

本書が今までにないオリジナルな点は3点ある。1点目は、「がん罹患社員大規模病休・復職実態追跡調査」から得られた「復職率」「退職率」「5年勤務継続率」等のデータから、各企業が必要な措置を講じる上で参考になる部分を多々得られている。2点目は、産業医学をベースとして、がん罹患社員への実務対応のエッセンスが詳細に分かりやすく掲載されている。3点目は、がん患者の体験談や、「がん治療と就労の両立支援」を行うための事例・テンプレートが多数掲載されている。

(書籍の主な内容)

- ・なぜ、がん罹患した社員の就労支援が重要なのか？
- ・がんの種類から推定する復職率・療養日数・復職後の勤務継続率・再病休率等
- ・データから読み解く「効果的な復職支援制度」と「必要な支援期間」
- ・がん療養後、「復職」「離職」の判断に影響を与える4因子
- ・がん罹患社員ゼロ期/療養開始期・療養期/復職期/復職後…ステージ別対応実務
- ・「事例性」「疾病性」に分けた実務対応とその「翻訳」の重要性/利害関係の調整
- ・両立支援のための衛生管理者・産業医・社労士・産業看護職の活用法
- ・乳がん・胃がん・大腸がん がん腫別「治療と就労の両立支援」のポイント
- ・がん相談支援センターと産業保健総合支援センターの活用法
- ・「がんとともに生きる」14名のがんと就労の体験談と企業からの声
- ・これから復職を目指す方々へのメッセージ





『医療安全における課題と対策について』

(東海地方会)

名古屋市昭和保健所 木戸内 清

ご承知のように、医療現場での保健衛生活動は極めて低調です。深刻で予防可能な血液媒介職業感染予防の取り組みが必要であると思います。感染症対策ICTジャーナルVol.12 No.4(出版社ヴァンメディカル)に『今日の現場で求められる職業感染対策とは—医療安全におけるピットフォールの現状を踏まえて』のテーマで筆者が執筆した記事の要旨を紹介させていただきます。

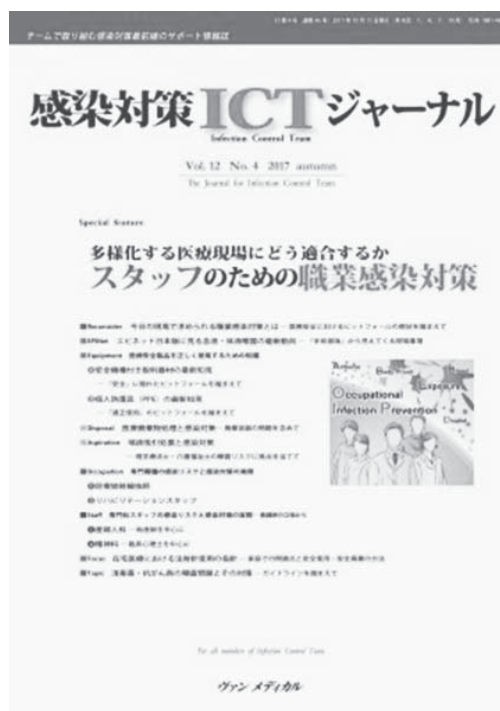
〈要旨〉

医療現場の災害状況：公務災害の認定件数（主に針刺しなどによる血液曝露）において職種別の千人当たりの災害発生率（千人率）は平成27年度は医師・歯科医師が第1位、看護師は警官より高頻度で第4位である。（地方公務員安全衛生推進協会 『公務災害の現状』より）

・医療従事者の職業感染対策：

労災隠しを無くし、すべての針刺し／血液・体液曝露事例を災害認定申請する病院管理体制を作り、その申請率を安全衛生の指標にすべきである。

・日本式のカミングアウト、血液曝露／職業感染サーベイランス体制を構築し、安全衛生活動によって医療関係者と患者の両翼の医療安全を目指す必要がある。



産業医部会、各地方会 行事開催予定一覧(2018 年 1 月～4 月)

開催 年月	産業医部会	地方会	名称	日時・開催地
2018 年 1 月		関東地方会	2017 年度関東地方会 産業医部会研修会	2018 年 1 月 13 日(土) 13:30～18:30 東京慈恵会医科大学 1 号館 5 階講堂 (港区西新橋 3-25-8)
	第 22 回産業医プロフェッショナルコース			2018 年 1 月 27 日(土)～1 月 28 日(日) オンワード総合研究所人財開発センター (横浜市都筑区牛久保 3-9-3)
		九州地方会	2017 年度九州地方会 産業医部会研修会	2018 年 1 月 27 日(土) 14:00～16:00 博多駅バスターミナ 9 階大ホール (福岡市博多区博多駅中央街 2-1)
未定	2018 年 第 1 回幹事会			(未定)
3 月		東海地方会	2017 年度東海地方会 産業医部会懇話会	2018 年 3 月 10 日(土) 14:00～17:00 ウィング愛知 1207 会議室 名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38 ※その後懇親会あり。
4 月	会報 第 63 号 (2018 年 4 月号) 発行予定			

産業医部会、各地方会 行事開催予定一覧

内容等	その他
研修テーマ:就労と疾患 ①講演「一般定期健康診断項目の見直しについて」 宮本俊明先生 新日鐵住金(株)君津製鐵所 安全健康室上席主幹(総括産業医・診療所長) ②講演「糖尿病治療アップデート(就労支援をふまえて)」 川浪大治先生 東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・ 内分泌内科講師 ③講演「炎症性腸疾患と就労」 鳥居 明先生 鳥居内科クリニック院長 ④講演「性同一性障害を正しく理解する」 松永千秋先生 ちあきクリニック院長 ⑤講演 「女性の就労とライフステージによるホルモンの関わり」 宗田 聡先生 広尾レディース院長	主催:日本産業衛生学会関東地方会産業医部会 共催:東京都医師会、慈恵医師会、日本産業衛生 学会産業看護部会 単位:日本医師会認定産業医は生涯研修 (更新)1 単位 (専門)4 単位 募集人数:110 名(非学会員の受講可/事前徴収) 受講料:日本産業衛生学会員 4,000 円 東京都医 師会員 4,000 円 道府県医師会員 5,000 円 非医 師会員 6,000 円 事前申し込み必要 申し込み締め切り 2018 年 1 月 10 日(水) 申し込み方法等、詳細は下記 URL(東京都医師会 産業医研修会開催スケジュール)ご参照くださ い。 URL : https://www.tokyo.med.or.jp/sangyoi_schedule/6143
研修テーマ: 産業医のための「もっと伝わる教育デザイン」 ～狙った効果を出すために～ ー1 日目(1/27)ー 13:00ー18:00 講師:柴田喜幸先生(産業医科大学) <教育設計学ガイド> ① 開講 テーマ選択と自己流での研修設計案作成 ② 教育設計学の知見に則った解説と設計書の改訂 <実践研修> ③ ツール開発と実践準備 ④ グループ内デモ・模擬講義・代表決定 ー2 日目(1/28)ー 9:00ー12:00 <発表とフィードバック> ⑤ グループ代表による全体発表とコメント	主催:日本産業衛生学会産業医部会 募集人数:50 名 受講料:日本産業衛生学会産業医部会員 20,000 円(2 日間コース) 日本産業衛生学会会員(医師) 25,000 円(2 日間 コース) 情報交換会(懇親会)参加費 希望者のみ:5,000 円 (受講料別) 初日プログラム終了後、講師も交え懇親会を行 います。 応募開始:産業医部会員 平成 28 年 11 月 1 日 9:00 から 非部会員(医師かつ学会員であること) 同 11 月 8 日 9:00 から
研修テーマ:「過重労働による健康障害への対策 ～最新のエビデンスと共に～」 講師:空閑玄明先生(マツダ(株) 安全健康防災推進部 統括産業医)	参加費:1,000 円 主催:日本産業衛生学会九州地方会産業医部会 共催:福岡県医師会(予定) 福岡産業保健総合支援センター 産業医科大学ストレス関連疾患予防センター 産業医学推進研究会九州地方会 日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会 単位:日本医師会認定産業医 生涯専門 2 単位(予定) 日本産業衛生学会産業保健看護専門家制 度継続研修 専門 2 単位
①特別講演:「産業医活動と衛生学、公衆衛生学」 講師:塚原照臣先生(信州大学医学部 産業衛生学講座 教授 (特定雇用)) ②第 2 部:産業医活動報告 報告 1 「より広がる産業保健活動に向けて」 講師 本田技研工業株式会社 鈴鹿製作所 道井 聡史 先生 報告 2 「現地現物の考えを産業医活動に」 講師 豊田自動織機 刈谷工場 平野 貢 先生 報告 3 「専属産業医から嘱託産業医へ～女性産業医の ワークバランスの模索～」 講師 アールエイチ産業医事務所 足立 留美子 先生	※事前申し込み必要 ・会費:本会のみは無料、親睦会は 4,000 円 ・申込先:三菱重工業(株)大江西健康管理科 石川浩二 宛 kouji_ishikawa@mhi.co.jp ・申込期限:2018 年 3 月 1 日 (申込確認返信メールをもって申込完了としま す。) ※親睦会申込後無断欠席の場合も後日請求させ て頂きますのでご了承ください。 ・問合せ先:TEL052-611-2305

編集委員会よりお知らせ

(1) 部会員からのお知らせコーナー

学会や研究会など部会員の関わる行事の告知や著書紹介など、情報の周知を目的としたコーナーです。掲載ご希望の方は、事務局宛てに原稿(字数400字程度+写真1枚)をメールでお送りください。なお掲載に関しては、医部会の活動目的に照らし編集委員会にて審議のうえ決定させていただきますので、ご了承のほどお願いいたします。

(2) 自由投稿をお寄せください

部会報は部会員の交流の場です。皆さまの自由投稿を歓迎します。編集委員会の方針として、より多くの先生方の産業医活動あるいは日頃思っていることなどをご紹介したいと考えています。字数1,000字程度にまとめ、事務局宛てメールにて、ご送付ください。

(3) 部会報について、ご意見をお待ちしています

皆さまのご期待に沿えるよう、より一層誌面の充実に努めてまいります。ご意見や企画案など、是非、事務局までお知らせください。よろしくお願いいたします。

【事務局連絡先】 (公社) 日本産業衛生学会 産業医部会事務局

Eメール : sanei.4bukai@nifty.com TEL : 03-3358-4001 FAX : 03-3358-4002

編集後記

2017年も残すところあと僅かとなりました。今号の巻頭言に川上新理事長より今年を締めくくり、新たな年の幕開けにふさわしい産業医部会へ期待を込めた熱いメッセージをいただきました。また、今年は社会医学系専門医制度もスタートしました。森晃爾先生より『社会医学系専門医制度の背景と意義』についてのご解説、森本泰夫先生より『産業医科大学社会医学系専門医研修プログラム』のご紹介をいただいております。研修プログラムについては、今後も執筆者からのご紹介でのリレー方式で掲載継続する予定です。

編集委員となり1年半が過ぎましたが、まだまだ不慣れで医部会員の先生方に助けられ、ご寄稿いただいた先生方の珠玉のメッセージを年内にお届けすることができました。先生方の多大なご支援に感謝し、お礼申し上げます。

2018年も医部会員の先生方にとり、佳き年でありますようお願い申し上げます。 (I)

編集委員会委員

石川 浩二 (三菱重工)、○彌 富 美奈子 (SUMCO)

◎谷 山 佳津子 (朝日新聞)、原 俊 之 (北海道労働保健管理協会)

◎ : 編集委員長、○ : 第62号編集担当 (五十音順)